

# 鉄骨加工、溶接現場で見学会 宮津天橋高生徒が実践 地域貢献事業 建設業の魅力伝える

宮津建設業協会

宮津建設業協会（安田浩一会長）は14日、地域貢献事業として「現場見学会鉄骨工事編」を与謝野町内の日下部建築（株）岩滝工場で開催した。府立宮津天橋高等学校建築科の2年生を対象としたもので、生徒らは鉄骨工事の内容や鉄骨加工の流れなどの説明を

受けたほか、鉄骨の溶接体験を行い、日頃経験することのできない現場見学会となり、貴重な体験となった。

見学会は、同協会が建設業の魅力を発信する



安田会長が挨拶

ことで将来に担い手を確保する取り組みとして企画したもので参加したのは、宮津天橋高校建築科2年生22人、教師3人。主催者として同協会の安田会長、理事の日



鉄骨加工の作業を見学



記念撮影

下部博一代表取締役社長が参加、日下部建築社員が現場を取り仕切った。

主催者挨拶で安田会長が「皆さんは入学して2年経ち建設の専門知識も



溶接作業を実践

識も多く勉強されていると思いますが、実際の目で鉄骨の加工や溶接の現場を見ることは少ないと思います。今日は実技として溶接作業を経験して頂き、建設業に対して好奇心や探求心が生まれ興味を持つてもらえればと思います。充実した時間にしてください」と挨拶した。

この日は、日下部代表取締役が講師に立ち「今日の経験が将来に役立つらと思えます。我々もまちのために仕事に取り組んでおり、少しでも見ていただき我々と一緒に仕事してもらえよう期待しています」と話した。

最後に、生徒が代表して挨拶し「お忙しい中、このような作業を経験させてもらいありがとうございます。本当に勉強になりました」と感謝の言葉を述べた。

用し、切断から穴あけ、阪神大震災以降に主流となった構造物の加工工程など、構造物として使用するまでの鉄骨加工の流れを生徒たちは見学した。

溶接体験では、生徒たちが上下ツナギに着替え、溶接時に必要な防具として、安全靴や頭巾、革手袋、作業用保護眼鏡などを着用し、同社員が丁寧に説明しながら、溶接機を使い作業を行った。初めての作業に生徒たちは驚きや難しさなど様々な声があり、普段では経験できない作業に取り組んだ。

令和6年3月18日(月)

建設タイムズ 掲載